

第6 資産カルテ（平成23年度決算）

1. 資産カルテの目的

県が管理する大規模な県有施設については、建設後の維持管理など今後の県財政への影響があることから、施設の状況や今後の大規模改修・修繕計画などについての確かな把握に努め、適正かつ効果的な維持管理を行っていくとともに、今後の維持管理や施設整備に対する県民の皆さんの理解を得る観点から、施設に関する財務情報をわかりやすく提供していくことが重要と考えます。

このため、県議会からの提言も踏まえ、施設の適切な管理と県民の皆さんへの情報開示のため、大規模施設について「資産カルテ」を作成し、公表しています。

2. 対象施設の考え方

- (1) 施設の規模
県財政への影響の観点から、施設の規模が相当程度あること。
- (2) 県民の利用
県民への情報開示の観点から、広く県民に利用されている施設であること。
- (3) 利用料金の徴収
維持管理費と料金との関係を検証する観点から、利用料金を徴している施設であること。

3. 今年度における対象施設

上記の考え方にに基づき、今年度は、以下の施設の資産カルテを作成しましたので、58頁以下に掲載します。

三重県総合文化センター
複合文化施設（文化会館、県立図書館など）
三重県立美術館
三重県営サンアリーナ
コンベンション施設（メインアリーナ、サブアリーナなど）
三重県営鈴鹿スポーツガーデン
総合スポーツ施設（水泳場、庭球場など）
三重県営総合競技場
総合スポーツ施設（陸上競技場、体育館など）

4. 資産カルテの活用

県が管理する大規模施設について、長期にわたり計画的かつ効果的な維持管理を進めるとともに、施設に関する財務情報等をわかりやすく提供するため、この資産カルテを活用し、施設の運営管理の状況を多面的にチェックしていくことで、利用者の皆さんに良質なサービスを提供し効率的な施設管理を行っていけるよう努めます。

5. 昨年度からの変更点

財務情報をよりわかりやすく提供するため、様式の変更を行いました。

- 1. 「資産、支出」欄の名称を「資産」に変更
貸借対照表とキャッシュフロー計算書の要素が混在しているため、「資産」に

統一しました。

2. 「負債、財源」欄の名称を「財源」に変更

負債以外の要素である国庫支出金や県費が含まれているため、「財源」に変更しました。

3. 「資産、支出」欄の「過去の改修・修繕費」を「過去の改修費」に変更

「資産」の要素ではない修繕費を削除しました。

4. 「資産、支出」の「今後の整備」欄を「今後の整備」と「今後の修繕」に分割

「資産」の要素ではない修繕費を分離しました。

5. 「ライフサイクルコスト」の「減価償却費累計額」を「建物建設費・改修費累計額」に変更

これまでは建物建設費を「減価償却費累計額」と表していました。しかし、実際には県の建物は減価償却を行っていないことから、実態に合わせて建物建設費と変更し、これまでの「改修・修繕費累計額」のうち資産の増加に資する改修費と合わせて「建物建設費・改修費累計額」と表すこととしました。

6. 「ライフサイクルコスト」の「改修・修繕費累計額」を「修繕費累計額」に変更

上記5により改修費累計額を「建物建設費・改修費累計額」に含めることから、改修費を削除しました。

7. 「県民1人当たり運営費」欄の計算方法を変更し、「県民1人当たり運営費負担額」と変更

これまでの「県民1人当たり運営費」は、「総支出額÷人口」で算出を行っていましたが、総支出額の一部には料金収入等が含まれているため、正しい県民負担を示していませんでした。このことから、料金収入等の影響を排除した「収入のうち県費負担額÷人口」によって算出することにしました。これに伴い、名称を「県民1人当たり運営費負担額」としました。

8. 「利用者数」の「利用者1人当たり運営費」欄の計算方法を変更し、「利用者1人当たり運営費負担額」と変更

これまでの「利用者1人当たり運営費」は、「総支出額÷利用者数」で算出を行っていましたが、総支出額の一部には県費（県民負担）が含まれているため、正しい利用者負担を示していませんでした。このことから、県民負担の影響を排除した「収入のうち料金収入額÷利用者数」によって算出することにしました。これに伴い、名称を「利用者1人当たり運営費負担額」としました。

9. 「料金収入及び利用者1人当たり運営費の推移」グラフを「料金収入及び県民1人当たり運営費負担額の推移」グラフに変更

県民の皆さんにお知らせする情報としては、利用者負担額の推移よりも県民負担額の推移をより重視すべきとの考えから、項目の変更を行いました。

資産カルテ【平成23年度決算】

施設名

三重県総合文化センター

建築年月日	平成6年6月竣工	供用開始日	平成6年10月	延床面積	46,305㎡	敷地面積	62,224㎡
建物構造、構成	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	公益財団法人三重県文化振興事業団				

	資産	財源	ライフサイクルコスト					
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 432億6千4百万円	財源計 432億6千4百万円 (内訳)	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上					
	建物建設費(A) 364億6百万円	国庫支出金 —	建物建設費・改修費累計額① ・これまで 370億5千4百万円 ・今後 10億円 計 380億5千4百万円					
	1期(当初) 357億5千9百万円	地方債 298億6千7百万円						
	立体駐車場建築 6億4千7百万円	県費その他 133億9千7百万円						
	用地費(B) 27億5千3百万円	(地方債残高 20億33百万円)						
	備品・その他(C) 41億5百万円	※借換債を含む						
	過去の改修費 6億4千8百万円	6億4千8百万円	修繕費累計額② ・これまで 15億8千2百万円 ・今後 51億6千8百万円 計 67億5千万円					
今後の整備	大規模改修等計画(予定) ・平成26年度 建築設備・建築物 5億円 ・平成46年度 建築設備・建築物 5億円	10億円	人件費累計額③ ・これまで 86億2千8百万円 ・今後 150億5千4百万円 計 236億8千2百万円					
今後の修繕	修繕計画(予定) ・舞台修繕(24~27) 9億6千6百万円 ・舞台設備(28~55) 22億5千万円 ・建築設備(24~55) 19億5千2百万円	51億6千8百万円	管理費累計額④ ・これまで 95億1千8百万円 ・今後 172億5千9百万円 計 267億7千7百万円					
運営費(単年度)	支出額(決算額)	H23	H22	収入額(決算額)	H23	H22		
	人件費	518,456	501,253	千円	料金収入	168,697	167,590	千円
	管理費	517,173	483,544	千円	……A1			
	修繕費	278,661	420,975	千円	事業収入等	200,579	174,933	千円
	事業費	419,179	479,212	千円	県費負担額	1,633,892	1,587,917	千円
	元利償還金	269,699	45,456	千円	……A2			
	計	2,003,168	1,930,440	千円	計	2,003,168	1,930,440	千円
							利子累計額⑤ ・これまで 95億6千1百万円 ・今後 1億1千3百万円 計 96億7千4百万円	
							ライフサイクルコスト計 ①~⑤ 計 1,049億3千7百万円	

成果指標(実績は23年度)	
目標値①	施設利用率 年間73%
実績	79.6%
目標値②	
実績	

県民1人当たり運営費負担額(H23)	
A2÷CH23	884 円
C… (H23推計人口)	1,848,107 人(H23.10.1)
A2÷DH22	856 円
D… (H22推計人口)	1,854,742 人(H22.10.1)

利用者数
・当初予定利用者数 年間65万人(図書館除く)
・実績(平成23年度) 740,293 人(図書館除く) 323,132 人(図書館)
計 1,063,425 人 …… B
(参考) 利用者1人当たりの運営費負担額(H23) A1÷B H23 159 円 【 H22 160 円 】

管理運営方針(基本的考え方、料金改定等)

- ・県民の誰もが文化芸術を享受でき、文化活動に参加・参画できる環境づくりを進める。
- ・運営の中で積み上げてきた事例や蓄積された幅広いノウハウ、成果を県内の市町や県民に情報発信し、新しい地域社会を創造する原動力となる「文化力」を高めていく。
- ・行政機関、民間団体、NPO、ボランティア等との連携を強化し、多様な学習機会、交流の場、発表の場を提供する。
- ・文化芸術、生涯学習、男女共同参画活動の拠点施設として、情報提供、交流、人材育成、活動支援等の専門性を発揮する。

料金体系

【営利】		【非営利】	
・大ホール 平日午前 入場料1,000円以下	61,160円	・大ホール 平日午前 入場料1,000円以下	40,770円
・中ホール 平日午前 入場料1,000円以下	30,580円	・中ホール 平日午前 入場料1,000円以下	20,380円
・大会議室 午前	17,120円	・大会議室 午前	8,560円
	など		など

施設の耐震化状況

建物構造物は、S56建築基準法改正後建築であるため、耐震基準を満たしている。
 吊天井については、H20に大ホール・中ホール、多目的ホール、H23にレセプションホール等の耐震改修工事を実施し終了。

施設のバリアフリー化状況

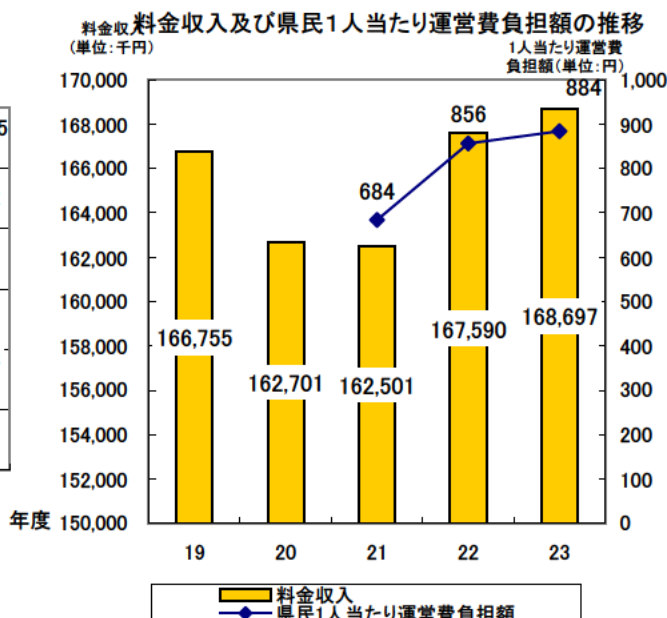
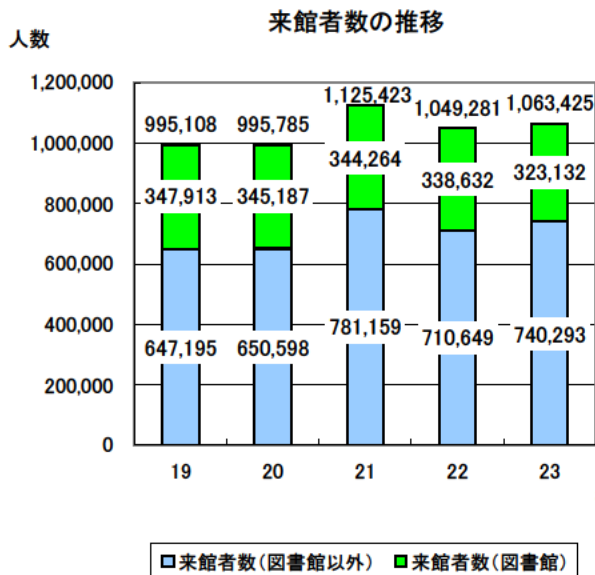
平成12年度にバリアフリー工事を実施済。(約1.2億円)(スロープ改修・階段手摺設置・点字ブロック設置・トイレ改修・車椅子用駐車場整備他)

これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

経営の効率化、柔軟な事業展開を行うとともに、機動性・弾力性の高さを活かして各種サービスの改善に取り組んできた結果、H21年度に過去最高の利用率となり、平成23年度も高い利用率を維持している。
 複合施設としてのメリットを活かし、県の文化芸術、生涯学習、男女共同参画の進展に大きく寄与するべく、引き続き、蓄積されたネットワークやノウハウを発揮して効率的な運営を行っていく。

成果指標の推移

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
施設利用率(%)	73.8	75.2	79.7	78.0	79.6



資産カルテ【平成23年度決算】

施設名

三重県立美術館

建築年月日	昭和57年3月	供用開始日	昭和57年9月	延床面積	10,666㎡	用地面積	24,403.80㎡
建物構造、構成	鉄筋コンクリート(一部鉄骨鉄筋コンクリート)造地上2階一部地下1階建						
施設運営形態	直営	指定管理者名	-				

	資産		財源		ライフサイクルコスト	
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C)	86億4千5百万円	財源計	86億4千5百万円	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上</div> 建物建設費・改修費累計額① ・これまで 49億6千2百万円 ・今後 8千6百万円 計 50億4千8百万円 修繕費累計額② ・これまで 3億8千万円 ・今後 6億5千6百万円 計 10億3千6百万円 人件費累計額③ ・これまで 35億2千万円 ・今後 23億4千5百万円 計 58億6千5百万円	
	建物建設費(A)	45億8千2百万円	(内訳)			
	当初	27億8千2百万円	国庫支出金			
	増改築	18億円	地方債	} 86億4千5百万円		
用地費(B)	総合教育センター敷地		県費その他			
	備品・その他(C)	40億6千3百万円	(地方債残高	10億3千6百万円)		
	過去の改修費	3億8千万円		3億8千万円		
今後の整備	大規模改修計画(予定)					
	平成27~31年度	8千6百万円		8千6百万円		

今後の修繕	修繕計画(予定)		} 6億5千6百万円
	平成24~27年度	3億8百万円	
	施設設備		
	平成32~43年度	3億4千8百万円	
	施設設備		

運営費(単年度)	支出額(決算額)			収入額(決算額)		
	H23	H22		H23	H22	
人件費	117,771	117,008	千円	料金収入	20,377	23,560 千円
管理費	151,226	134,590	千円	……A1		
修繕費	7,783	10,098	千円	事業収入等	0	0 千円
事業費	94,237	62,857	千円	県費負担額	354,581	308,803 千円
元利償還金	16,576	16,576	千円	……A2		
計	387,593	341,129	千円	雑収入	12,635	8,766 千円
				国庫支出金	0	0 千円
				計	387,593	341,129 千円
			……A			

管理費累計額④	
・これまで	40億8千8百万円
・今後	26億9千8百万円
計	67億8千6百万円
利子累計額⑤	
・これまで	6億9千万円
・今後	3千3百万円
計	7億2千3百万円

ライフサイクルコスト計	
①~⑤ 計	194億5千8百万円

成果指標(実績は23年度)	
目標値①	入館者数 10万人
実績	124,767人
目標値②	講演会・ギャラリートークの開催 7回
実績	12回

県民1人当たり運営費負担額(H23)	
A2÷C H23	192 円 C・(H23推計人口) 1,848,107 人(H23.10.1)
[A2÷D H22	166 円 D・(H22推計人口) 1,854,742 人(H22.10.1)

利用者数	
・当初予定入館者数	10万人
・実績(平成23年度)	124,767 人
計	124,767 人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費負担額(H23)	A1÷B H23 163 円
(H22	194 円)

管理運営方針(基本的考え方、料金改定等)

・明治期以降の日本近代洋画を中心に、現代の生きた動きを物語る作品、日本の作家たちに影響を与えた海外の作品、近世以後の三重県にゆかりの深い美術家の作品などを収集する。
 ・資料収集、調査研究、展示、教育普及など美術館の基本的な機能を重視し、独自の企画展のほか、多彩な展覧会を開催する。
 ・生涯学習活動として、移動美術館、美術セミナー及び各種講座、子どもの体験型ワークショップの実施など地域社会へサービスの充実を図る。
 ・美術館活動の活性化と支援のため、美術館ボランティア「櫻の会」、公益財団法人三重県立美術館協力会、三重県立美術館友の会、公益財団法人岡田文化財団との協力体制を整備し、それぞれ美術館と連携しながら積極的な活動を展開する。

料金体系

県立美術館

常設展 一般 300円
 高校生・大学生 200円
 企画展は、その都度設定

施設の耐震化状況

平成20年度につり天井改修済み
 柳原義達記念館の彫刻作品の免震装置は、設置済み
 その他の彫刻作品、工芸作品の免震装置は、なし

施設のバリアフリー化状況

展示スペースのバリアフリー化は、ほぼ終了している。

これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

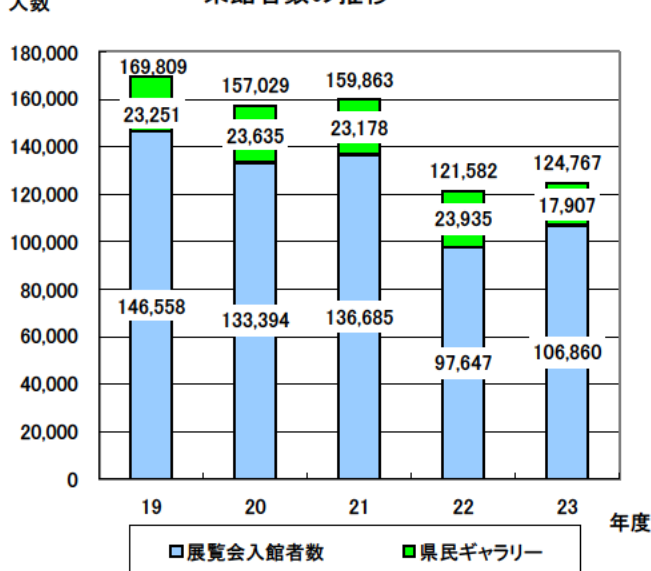
限られた経営資源で質の高い企画展を維持しながら、よりきめの細かいサービスを提供していく必要がある。
 また、美術館活動の支援団体である美術館ボランティア「櫻の会」、公益財団法人三重県立美術館協力会、三重県立美術館友の会、公益財団法人岡田文化財団等と連携しながら積極的な活動を展開する。

成果指標の推移

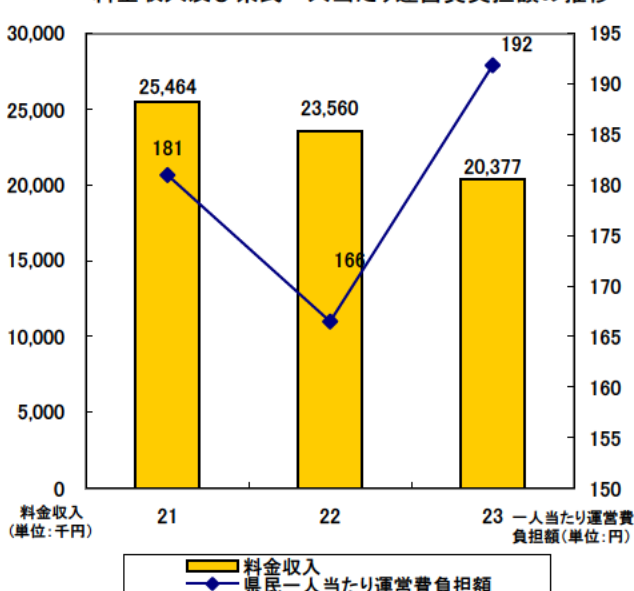
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
展覧会入館者数	146,558	133,394	136,685	97,647	106,860
県民ギャラリー	23,251	23,635	23,178	23,935	17,907

人数

来館者数の推移



料金収入及び県民一人当たり運営費負担額の推移



資産カルテ【平成23年度決算】

施設名

三重県営サンアリーナ

建築年月日	平成6年5月竣工	供用開始日	平成7年1月4日	延床面積	24,312㎡	敷地面積	28,645㎡
建物構造、構成	鉄筋コンクリート造及び鉄筋造3階建						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	株式会社 スコルチャ三重				

	資産	財源	ライフサイクルコスト
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 174億2千4百万円	財源計 174億2千4百万円 (内訳) 国庫支出金 地方債 140億2千万円 県費その他 34億4百万円 (地方債残高 29億8千1百万円) ※借換債を含む	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上 建物建設費・改修費累計額① ・これまで 160億1千4百万円 ・今後 0円 計 160億1千4百万円 修繕費累計額② ・これまで 9億7千万円 ・今後 32億8千8百万円 計 42億5千8百万円
	過去の改修費		人件費累計額③ ・これまで 17億7千万円 ・今後 27億5千6百万円 計 45億2千6百万円
今後の整備	大規模改修計画(予定)		管理費累計額④ ・これまで 38億1千1百万円 ・今後 60億5千5百万円 計 98億6千6百万円 利子累計額⑤ ・これまで 45億9千1百万円 ・今後 1億6千4百万円 計 47億5千5百万円

今後の修繕	修繕計画(予定)	} 32億8千8百万円
	・平成24年度 1千8百万円	
	・平成25年度 1億6百万円	
	・平成26年度 1億6千4百万円	
	・平成27年度(～H56) 30億円	

運営費(単年度)	支出額(決算額)	H23	H22	千円	収入額(決算額)	H23	H22	千円
	人件費	77,040	88,901	千円	料金収入	98,926	83,029	千円
	管理費	187,098	177,331	千円	……A1			
	修繕費	180,805	124,362	千円	事業収入等	29,544	19,169	千円
	事業費	43,877	23,937	千円	国庫負担額	43,280	0	千円
	元利償還金	434,032	90,227	千円	県費負担額	751,102	402,560	千円
	計	922,852	504,758	千円	……A2			
					計	922,852	504,758	千円

ライフサイクルコスト計
①～⑤ 計 394億1千9百万円

成果指標(実績は23年度)		
目標値①	メインアリーナ平均稼働率	57.0 %
実績		48.9 %
目標値②	サブアリーナ平均稼働率	67.0 %
実績		61.8 %
目標値③	会議室等平均稼働率	20.0 %
実績		19.4 %
目標値④	サンアリーナ利用人数合計	320,000 人
実績		297,781 人

利用者数	
・当初予定利用者数	年間 32.0 万人
・実績(平成23年度)	297,781 人
計	297,781 人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費負担額(H23)	
A1÷B H23	332 円
【 H22	320 円 】

県民1人当たり運営費負担額(H23)			
A2÷C H23	406 円	C… (H23推計人口)	1,848,107 人(H23.10.1)
【 A2÷D H22	217 円	D… (H22推計人口)	1,854,742 人(H22.10.1)】

管理運営方針（基本的考え方、料金改定等）

- ・“であいと交流”のステージを提供します。
- ・新たな“であい”によって文化を育み、“交流”を通じて人々に活力を与えます。
- ・多目的機能を備えた大規模複合施設である特性を活かし、様々な催しを実施し、地域との豊かなコミュニケーションに寄与します。
- ・特色のある文化活動や国際交流、スポーツの普及振興に取り組み、魅力ある三重県に貢献します。
- ・様々な活動を通じて、経済を活性化し、地域振興に寄与します。

料金体系	
メインアリーナ【全部利用】	サブアリーナ【全部利用】
アマチュアスポーツ等 平日 8,200～126,000 円/1H 土・日・祝 9,800～150,000 円/1H	アマチュアスポーツ等 平日 1,600～30,000 円/1H 土・日・祝 2,000～36,000 円/1H
音楽・プロスポーツ興行 平日 84,000～126,000 円/1H 土・日・祝 100,000～150,000 円/1H	音楽・プロスポーツ興行 平日 20,000～30,000 円/1H 土・日・祝 25,000～36,000 円/1H

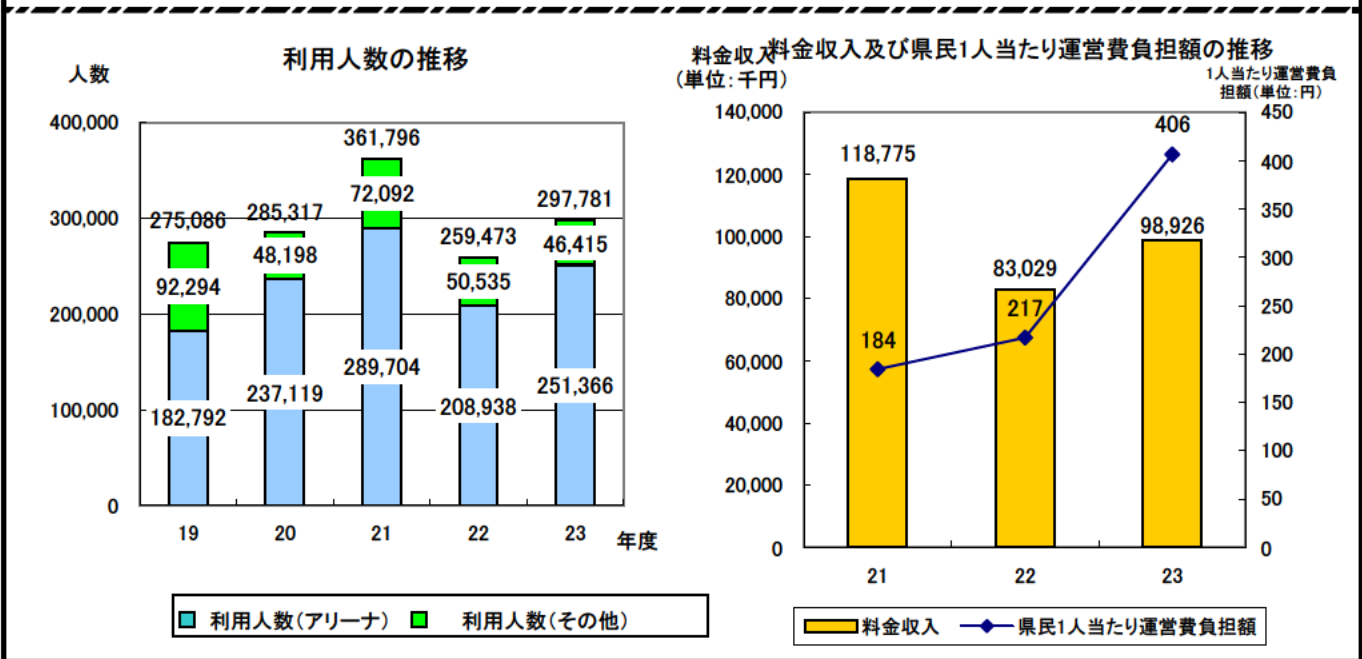
施設の耐震化状況	施設のバリアフリー化状況
H18～19 天井耐震改修工事実施	H13 身障者用駐車場及び屋外通路設置工事

これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】（利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など）

地域団体とのコラボレーションに努め、地域と連携した多彩なイベント等を実現し、新たな分野での利用拡大につなげている。また、地域や企業を対象とした体力・健康づくりやコミュニティの活性化に向けた自主事業の取組により、地域の文化・健康づくりや地域経済に貢献している。運営コスト面では、受電先を特定規模電気事業者へ切り替え、電力料金の節減効果を実現するなど、経費節減に努めている。今後は、老朽化が進む施設・設備について、修繕工事により利用促進等への支障をきたすことのないよう運営面での配慮を要する。

成果指標の推移

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
利用人数	275,086	285,317	361,796	259,473	297,781
平均稼働率（メインアリーナ）	55.0%	56.6%	61.4%	60.5%	48.9%



資産カルテ【平成23年度決算】

施設名

三重県営鈴鹿スポーツガーデン

建築年月日	平成4年8月	供用開始日	平成4年10月	延床面積	34,269.76㎡	敷地面積	391,000㎡
建物構造、構成	鉄骨造、鉄筋コンクリート造						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	三重県体育協会グループ				

	資産	財源	ライフサイクルコスト
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 188億6千9百万円	財源計 188億6千9百万円	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上 建物建設費・改修費累計額① ・これまで 127億9千万円 ・今後 25億円 計 152億9千万円
	建物建設費(A) 121億4千4百万円	(内訳)	
	1期 14億6百万円	国庫支出金	
	2期 92億5千4百万円	地方債 130億5千万円	
	3期 14億8千4百万円	県費その他 58億1千9百万円	
	用地費(B) 21億5千2百万円	(地方債残高 10億9千8百万円)	
	備品・その他(C) 45億7千3百万円	※借換債を含む	
	過去の改修費 6億4千7百万円		修繕費累計額② ・これまで 1千6百万円 ・今後 86億円 計 86億1千6百万円
今後の整備	大規模改修計画(～H54予定)	} 25億円	管理費累計額③※ ・これまで 60億8千万円 ・今後 102億円 計 162億8千万円
	・サッカーラグビー場(芝改修) 6億円		
	・水泳場(外壁等) 10億円		
	・体育館庭球場(人工芝等更新) 9億円		

今後の修繕	修繕計画(～H54予定)	} 86億円
	・サッカーラグビー場機器 5億円	
	・水泳場機器 60億円	
	・体育館庭球場機器 21億円	

運営費(単年度)	支出額(決算額)			収入額(決算額)		
	H23	H22		H23	H22	
人件費	66,222	64,857	千円	料金収入	101,164	102,700 千円
管理費	383,130	366,706	千円	……A1		
修繕費等	0	5,219	千円	事業収入等	44,360	42,337 千円
事業費	36,972	44,003	千円	県費負担額	486,088	378,416 千円
元利償還金	145,288	42,668	千円	……A2		
計	631,612	523,453	千円	計	631,612	523,453 千円

利子累計額④	・これまで 29億7千3百万円
	・今後 5千8百万円
	計 30億3千1百万円

※管理費累計額には人件費累計額を含む。

ライフサイクルコスト計	①～④ 計 432億1千7百万円
-------------	------------------

成果指標(実績は23年度)			
目標値①	利用者数(合計)	目標値	366,000人
実績		実績	457,086人
目標値②	大会数	目標値	300回
実績		実績	394回

県民1人当たり運営費負担額(H22)			
A2÷CH23	263 円	C… (H23推計人口)	1,848,107 人(H23.10.1)
[A2÷DH22	204 円	D… (H22推計人口)	1,854,724 人(H22.10.1)

利用者数	
・当初予定利用者数	年間36.6万人
・実績(平成23年度)	457,086人
計	457,086人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費負担額(H23)	
A1÷B H23	221 円
[H22	214 円]

管理運営方針(基本的考え方、料金改定等)

- ・生涯スポーツ振興と競技力向上の拠点となる総合的スポーツ施設としての機能を十分発揮するよう、管理運営を行う。
- ・競技環境の質の維持及び安全性の向上に努める。
- ・効果的かつ効率的な管理運営を行う。
- ・利用者の視点に立った管理運営を行う。

料金体系

水泳場 メインプール・サブプール・トレーニングルーム 一般 450円/回	サッカーラグビー場 メイングラウンド 一般 3,500円/時間 第1,2,4グラウンド 一般 1,800円/時間 第3グラウンド 一般 1,500円/時間
庭球場 屋外コート 一般 600円/面・時間 シェルターコート 一般 800円/面・時間 センターコート 一般 1,200円/面・時間	体育館(全部使用) 平日料金 2,300円/時間 日・祝日料金 2,900円/時間 トレーニングルーム 一般 140円/時間
※全てアマチュアによる入場料を徴収しない場合	

施設の耐震化状況

建物構造物は、すべてS56. 6. 1建築基準法改正法施行後建築のため、耐震対策済。

施設のバリアフリー化状況

身障者用(多目的)トイレ、身障者(車いす)用観覧席、エレベーターの設置済み

これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

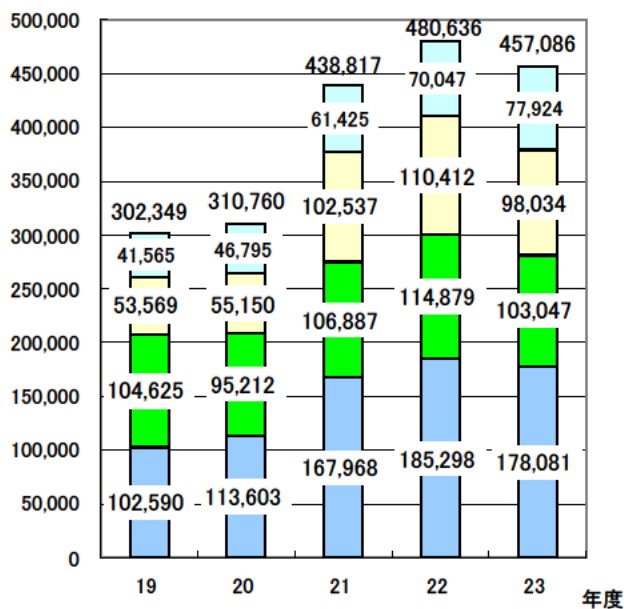
- ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕等に関する業務を適切に実施している。また、利用規定について、利用者の要望に対応できるようにできる限り改定を行っており、より利用しやすい施設の提供に努めている。
- ・休業日の縮小及び営業時間の延長を行っており、利用者サービス及び利便性の向上に努めている。
- ・利用者サービスのさらなる向上に向けた取組を継続していく必要がある。
- ・施設の老朽化対策に予算を確保し、安全・快適な利用環境を維持していく必要がある。

成果指標の推移

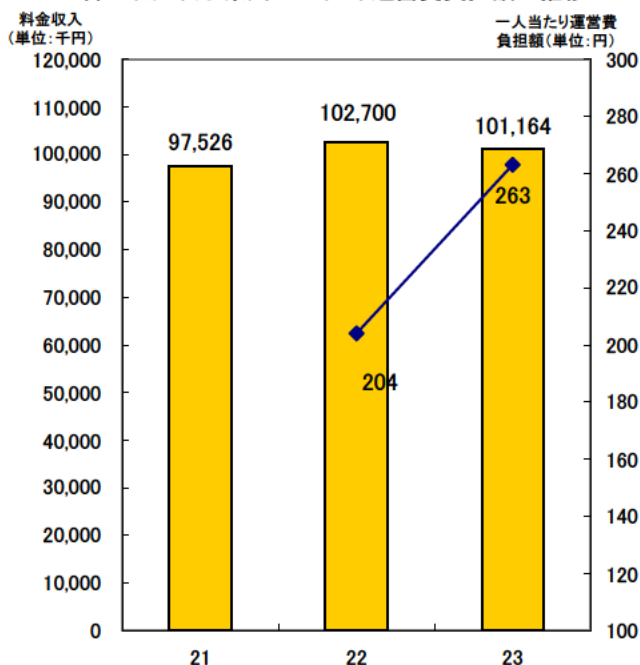
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
利用者数(合計)	302,349	310,760	438,817	480,636	457,086
大会数	354	352	376	400	394

人数

利用者数の推移



料金収入及び県民1人当たり運営費負担額の推移



□水泳場 □庭球場 □サッカー・ラグビー場 □体育館等

■料金収入 ◆県民1人当たり運営費負担額

資産カルテ【平成23年度決算】

施設名

三重県営総合競技場

建築年月日	昭和39年3月	供用開始日	昭和39年4月	延床面積	10,530㎡	用地面積	85,628㎡
建物構造、構成	鉄骨造、鉄筋コンクリート造						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	三重県体育協会グループ				

	資産	財源	ライフサイクルコスト				
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 15億6千0 百万円	財源計 15億6千0百万円	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上				
	建物建設費(A) 12億7千7 百万円	(内訳) 15億6千0 百万円					
	1期 2億1千0 百万円	国庫支出金 百万円	建物建設費・改修費累計額①				
	2期 2億8千0 百万円	地方債 } 15億6千0 百万円	・これまで 38億2千7 百万円				
	3期 2億6千2 百万円		・今後 15億6千3 百万円				
	4期 5億2千5 百万円		計 53億9千 万円				
	用地費(B) 0 百万円	(地方債残高 1億53 百万円)	修繕費累計額②				
	備品・その他(C) 2億8千3 百万円		・これまで 百万円				
	-----		・今後 2億2千2 百万円				
	過去の改修費 25億5千0 百万円		計 2億2千2 百万円				
今後の整備	大規模改修計画(～H27予定)	} 15億6千3 百万円	人件費累計額③				
	・陸上競技場 9億4千6 百万円		・これまで 7億8千6 百万円				
・体育館本館・別館 5億3千7 百万円	・今後 1億5千8 百万円						
・トレーニングセンター 8千0 百万円	計 9億4千4 百万円						
今後の修繕	修繕計画(～H27予定)	} 2億2千2 百万円	管理費累計額④				
	・陸上競技場 1億6千1 百万円		・これまで 14億6千2 百万円				
	・体育館本館・別館 4千2 百万円		・今後 2億5千3 百万円				
	・トレーニングセンター 1千9 百万円		計 17億1千5 百万円				
運営費(単年度)	支出額(決算額)	H23	H22	収入額(決算額)	H23	H22	
	人件費	40,294	36,784 千円	料金収入	27,919	25,237 千円	
	管理費	50,145	51,887 千円	……A1			
	修繕費等	0	0 千円	事業収入等	11,018	10,687 千円	
	事業費	7,369	6,370 千円	県費負担額	131,349	129,961 千円	
	元利償還金	72,478	70,844 千円	……A2			
	計	170,286	165,885 千円	計	170,286	165,885 千円	
				ライフサイクルコスト計			
				①～⑤ 計			
				85億6千8 百万円			

※修繕は、改修にあわせて実施。

成果指標(実績は23年度)			
目標値①	利用者数	目標値	222,500人
実績		実績	319,082人
目標値②	大会数	目標値	200回
実績		実績	318回
県民1人当たり運営費負担額(H23)			
A2÷CH23	71 円	C… (H23推計人口)	1,848,107 人(H23.10.1)
[A2÷DH22	70 円	D… (H22推計人口)	1,854,724 人(H22.10.1)]

利用者数	
・当初予定利用者数	
年間22.25万人	
・実績(平成23年度)	
319,082 人	
計	319,082 人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費負担額(H23)	
A1÷B H23	87 円
(H22	84 円)

管理運営方針(基本的考え方、料金改定等)

- ・生涯スポーツ振興と競技力向上の拠点となる総合的スポーツ施設としての機能を十分発揮するよう、管理運営を行う。
- ・競技環境の質の維持及び安全性の向上に努める。
- ・効果的かつ効率的な管理運営を行う。
- ・利用者の視点に立った管理運営を行う。

料金体系

・陸上競技場 全部使用の場合（平日）2,000円/時間（日曜、祝日）2,500円/時間 ・補助競技場 全部使用の場合（平日）800円/時間（日曜、祝日）1,000円/時間 ・体育館本館 全部使用の場合（平日）2,100円/時間（日曜、祝日）2,700円/時間 ・体育館別館 全部使用の場合（平日）1,000円/時間（日曜、祝日）1,400円/時間	・トレーニングセンター 高校生以下 60円/時間 その他の者 120円/時間 ※全てアマチュアによる入場料を徴収しない場合
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

施設の耐震化状況

H9.3に実施した耐震診断の結果、全施設耐震性能があると判定された。体育館本館の吊天井は、H21.7に耐震改修を完了した。

施設のバリアフリー化状況

身障者用(多目的)トイレの設置済み

これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

- ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕等に関する業務を適切に実施している。また、利用規定について、利用者の要望に対応できる限り改定を行っており、より利用しやすい施設の提供に努めている。
- ・休業日の縮小及び営業時間の延長を行っており、利用者サービス及び利便性の向上に努めている。
- ・利用者サービスのさらなる向上に向けた取組を継続していく必要がある。
- ・施設の老朽化対策に予算を確保し、安全・快適な利用環境を維持していく必要がある。

成果指標の推移

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
利用者数	249,638	250,318	289,774	300,918	319,082
大会数			242	264	318

